

構造工学委員会「橋梁予備設計の適正化に関する研究小委員会」委員の公募

土木学会構造工学委員会では、以下の研究小委員会を新たに設置いたします。この小委員会に参加いただける委員を公募します。本委員会の目的および内容は以下の通りです。

1. 設立主旨

道路橋示方書の改定により、部分係数設計及び限界状態設計フォーマットが本格的に導入され、橋梁の安全性や性能に対し、従前よりきめ細かな設計が可能となりました。また、設計供用期間を100年とし、その間適切な維持管理を行うことが規定され、個々の橋梁のあり方をより丁寧に吟味したうえで、100年間使い続けるための設計とマネジメントの実施が求められています。

一方、新設される橋梁のあり方をほぼ決定づけるのは、詳細設計よりもむしろ予備設計であることを考えると、今後は詳細設計の高度化に見合った「適切な予備設計のあり方」が問われてきます。

そこで、本研究小委員会では、設計供用期間100年を見据え、耐久性や維持管理性などの物理的性能はもとより、長期間存在し続けることの文化的・環境的側面にも十分配慮した橋梁予備設計における「定量評価の適正化」と「定性評価の適正化」をひとつの検討プロセスとして整合的に組み込んだ新たな橋梁予備設計の方法論を議論し、次世代に誇れる橋梁づくりの実現に繋がりたいと考えています。

そこで、本研究小委員会は、日頃より橋梁予備設計の実務やその評価に深く関わっている委員により構成し、実務的な観点を重視し、現状の橋梁予備設計の問題点をふまえ、その改善策を検討したうえで、実務への反映をもって次世代に誇れる橋梁づくりの実現、具体的には、わが国の橋梁予備設計の現状と課題を分析し、あるべき橋梁予備設計の方法を提案し、各発注機関が発行する設計要領（予備設計の手引き等含む）への反映を目指します。

2. 活動方法および活動内容

全体会議を通じ、活動の意義と目標について共有し、WG活動を通じて、主に、下記1)～5)の項目について調査・検討を進めることを予定しています。

- 1) 予備設計プロセスの現状調査
- 2) 予備設計に用いる積算単価の統計データの収集および積算手法の検討
- 3) 予備設計における維持管理計画等の技術的検討事項の整理
- 4) 予備設計の位置づけの再定義や各性能の価値評価手法の提案
- 5) 予備設計段階での新技術導入法の検討

3. 活動期間

2019年9月～ 2年間を予定

4. 委員構成（案）

委員長	久保田善明	富山大学
副委員長	松村政秀	熊本大学
幹事長	小松 純	中央復建コンサルタント株式会社
幹事	玉越隆史	京都大学

幹事	木村嘉富	国土技術政策総合研究所
幹事	関 健太郎	国土技術政策総合研究所
幹事	沼 勝雄	国土交通省近畿地方整備局

5. その他

交通費等の支給なし。

本小委員会は2018年6月より1年間、D委員会として活動してまいりましたが、この度、C委員会（活動期間は2年間で予定）として新たに発足し、委員の公募を行うものです。

メール会議・審議も活用した運営も予定しますので、橋梁設計に関わる発注者、設計者、学識者の皆さまの参加を歓迎いたします。

6. 応募方法（期限：2019年8月31日）

本小委員会に委員として参加を希望される方は、(1)氏名、(2)年齢、(3)所属・連絡先、(4)応募理由、(5)興味のある活動（2に記載の1）～5））あるいは橋梁設計プロセスに対する疑問や意見などをA4用紙1枚内に記入し、下記応募先までE-mailにてご連絡下さい（件名：橋梁予備設計小委員会への応募）。

7. 応募先・問合せ先

中央復建コンサルタンツ株式会社 構造系部門 橋梁・長寿命化グループ

小松 純

E-mail: komatsu_j@cfk.co.jp